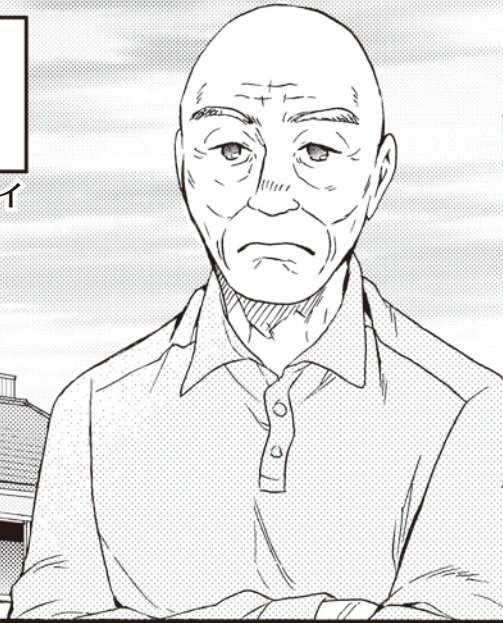


最後の野球観戦

作 中村昌史 / 絵 清水アイ

私が勤める
グループホームに
入居していたMさんは

野球が好きで
熱心な
巨人ファンでした



巨人が勝つと
ご機嫌になり、

よしっ

いいぞ!

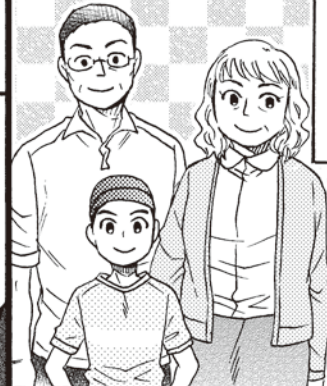


負けると
不機嫌に...

寝る!



そんなMさんの
娘さん家族も
大の巨人ファン

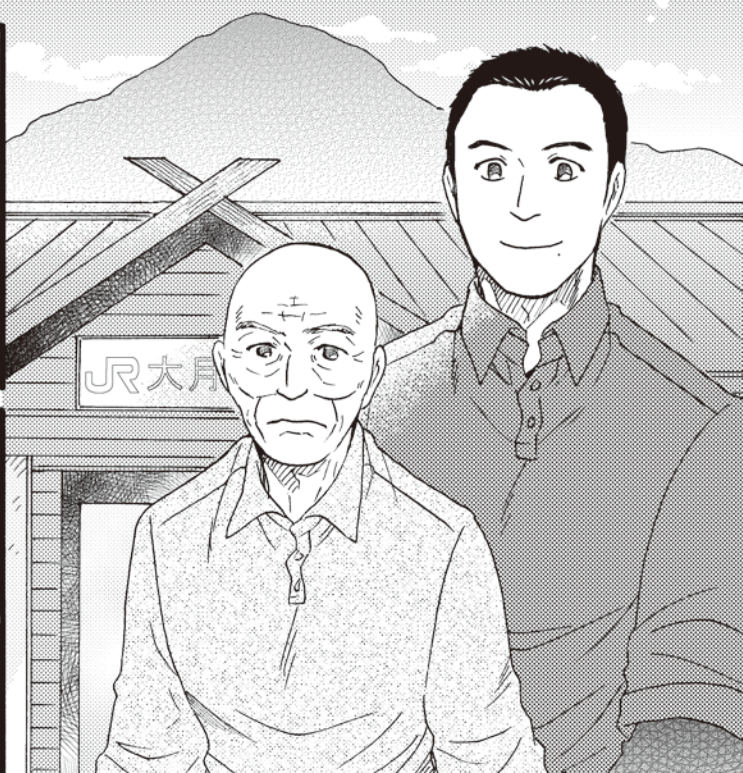
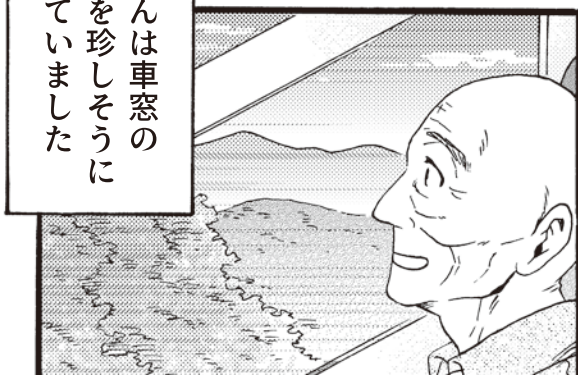
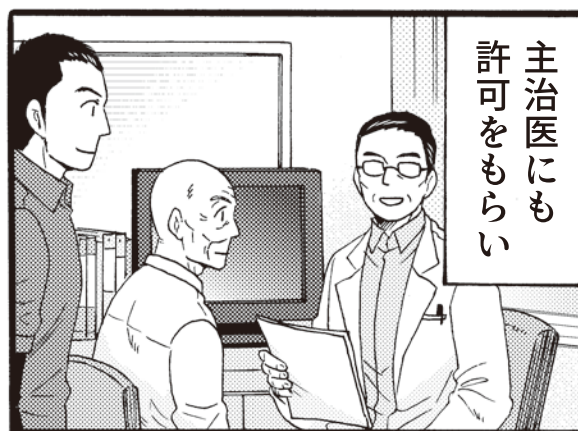


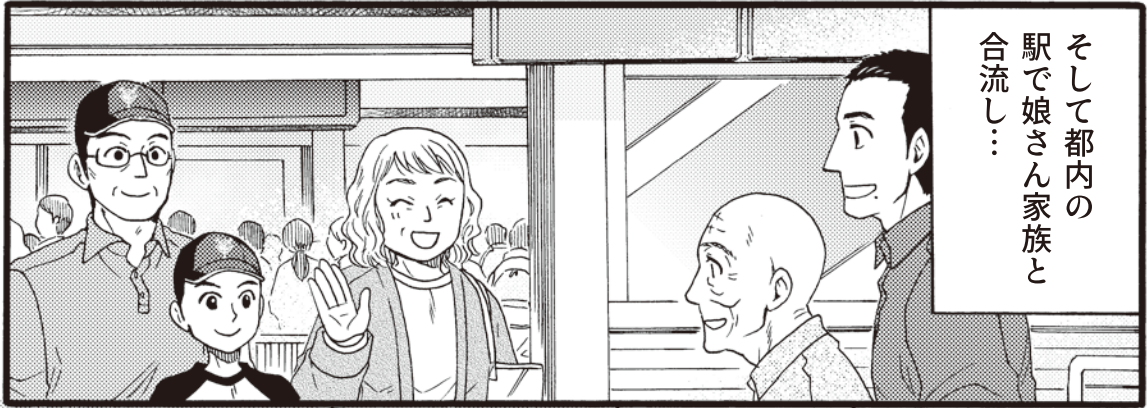
その娘さんが
ある日——

一度は家族で
野球観戦に
行きたいんです

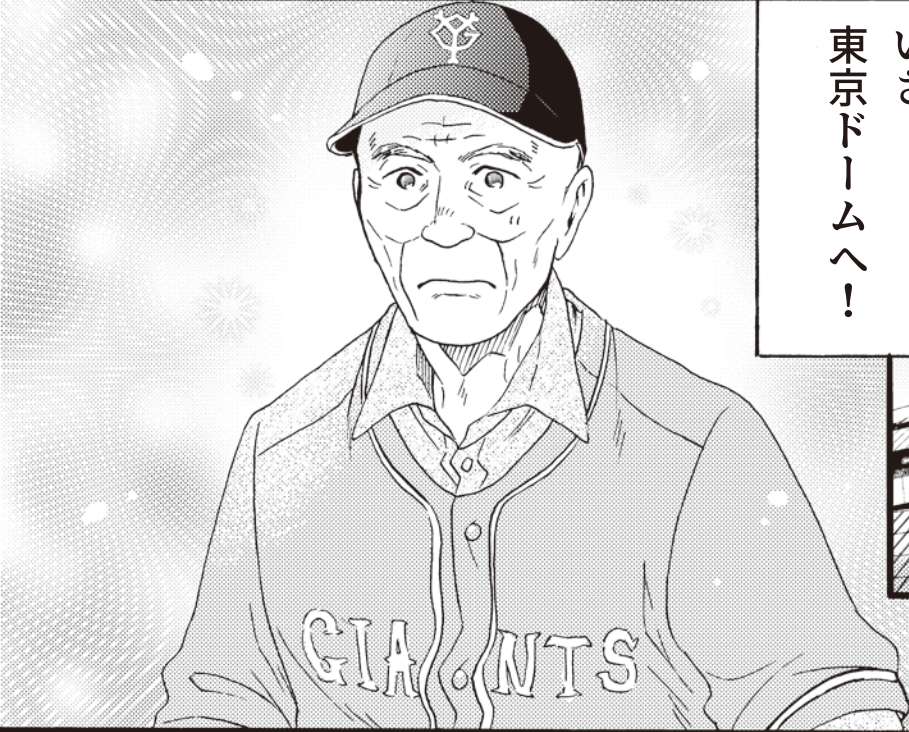
そうですね



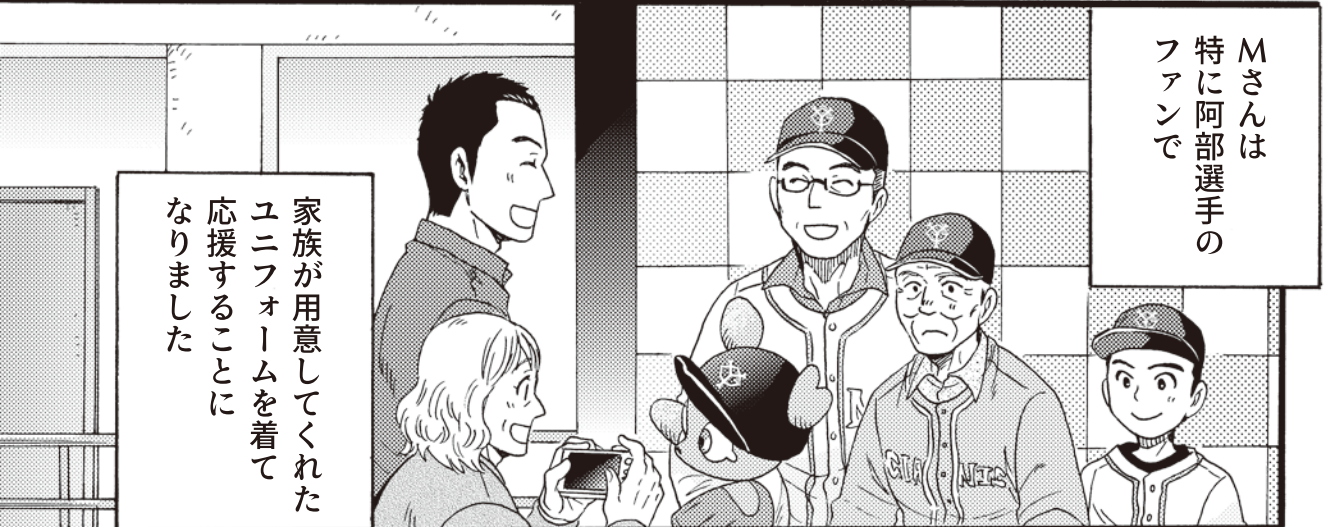




そして都内の
駅で娘さん家族と
合流し…



さあ、
東京ドームへ！

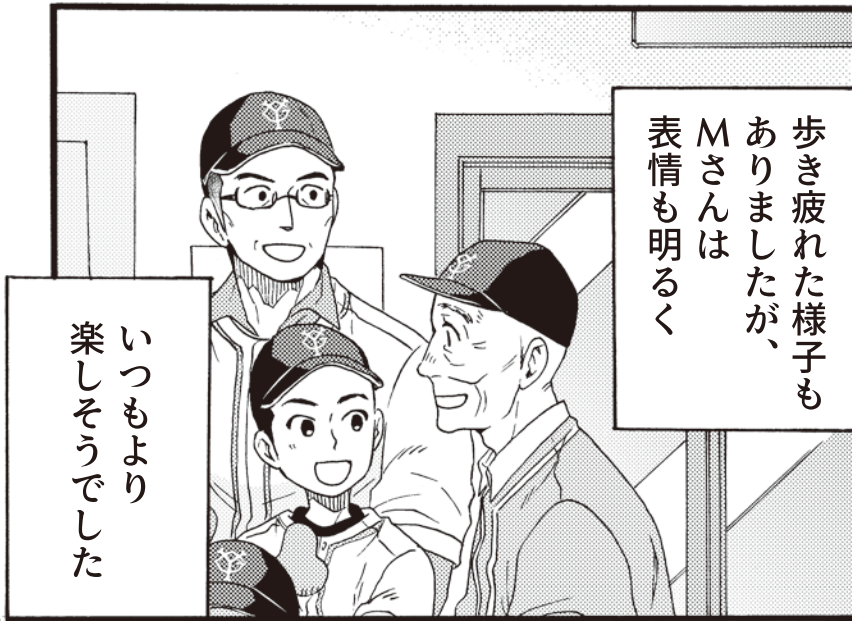


Mさんは
特に阿部選手の
ファンで

家族が用意してくれた
ユニフォームを着て
応援すること
になりました



そして
試合が始まり…



いつもより
楽しそうでした

歩き疲れた様子も
ありましたが、
Mさんは
表情も明るく



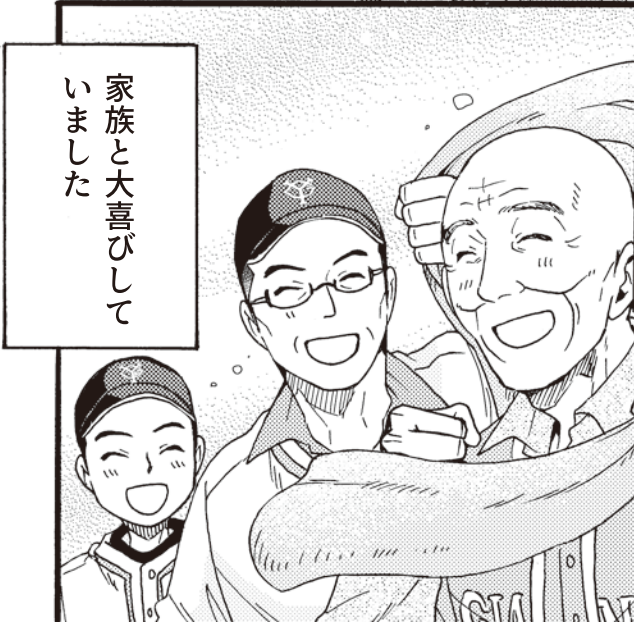
すると、なんと
阿部選手が
ホームラン!



いいぞ!

よし!

Mさんも
みんなと一緒に
選手を応援

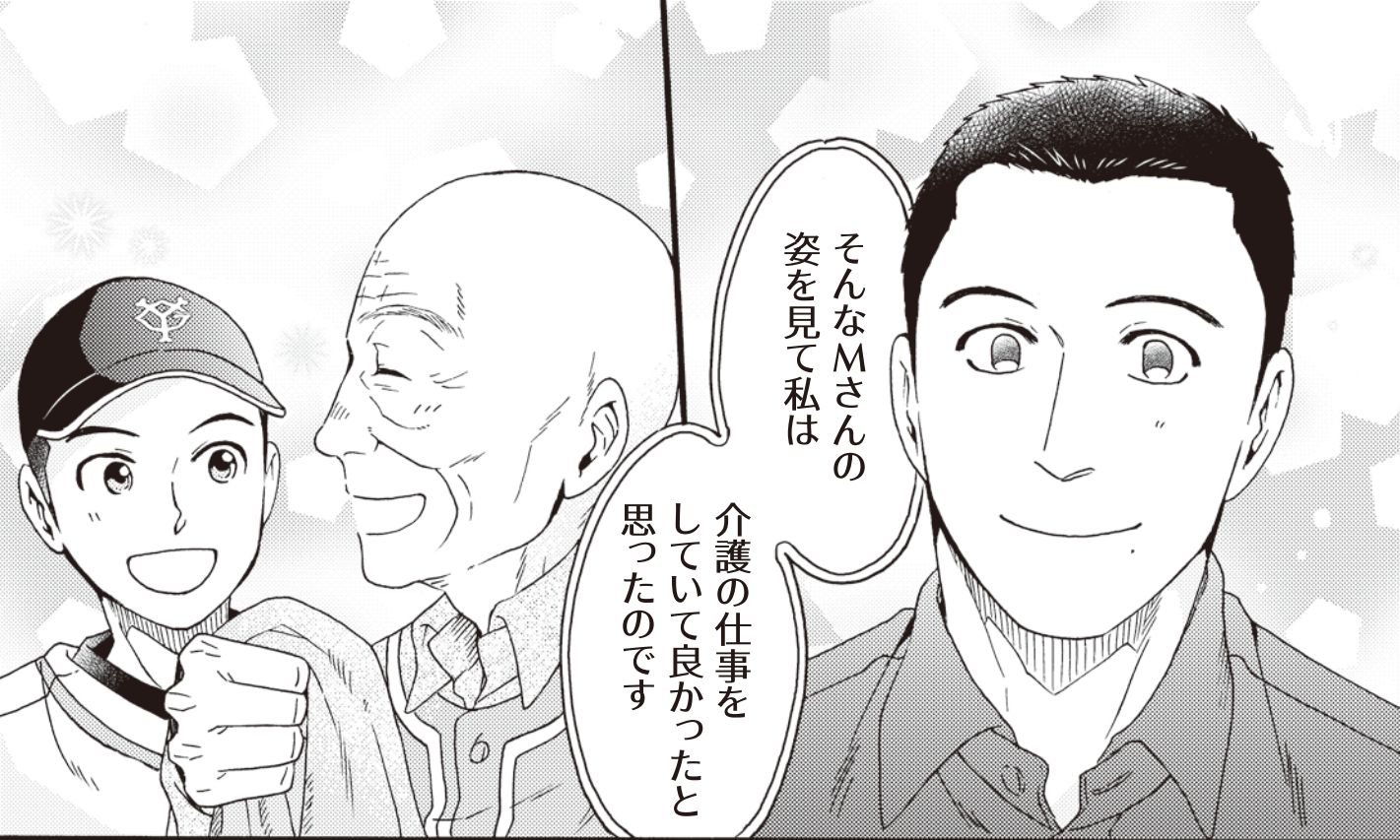


家族と大喜びして
いました

Mさんは大興奮で
タオルを振り回し



わあっ



そんなMさんの
姿を見て私は

介護の仕事を
していて良かったと
思ったのです

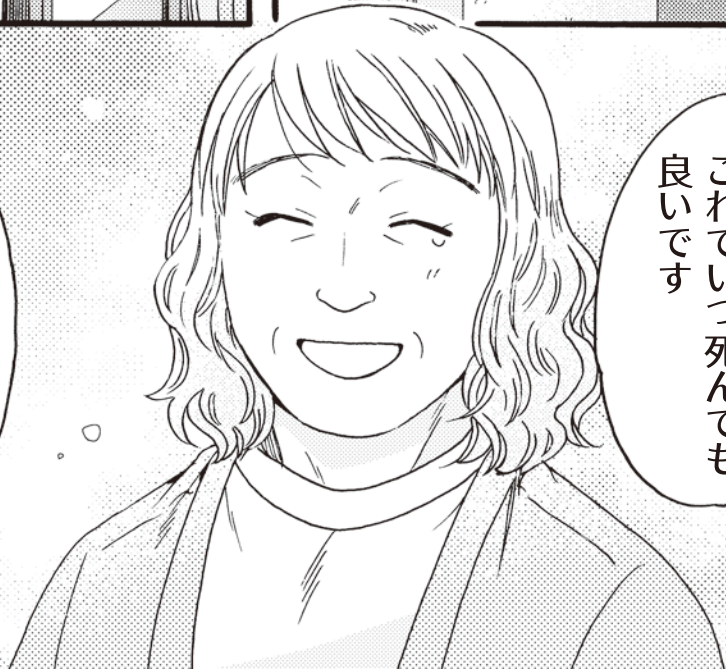
その
数日後

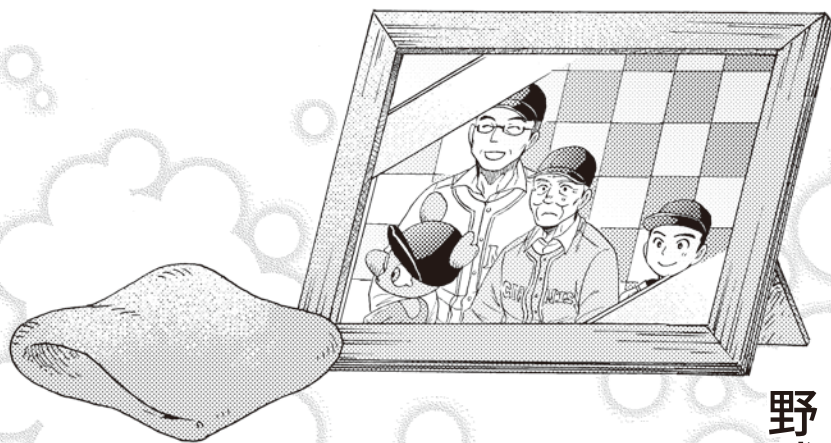
この度は
お世話になりました

いえ、無事に
行けて良かったです

おじいちゃんは
これでいつ死んでも
良いです

本当に
ありがとうございます
ございました

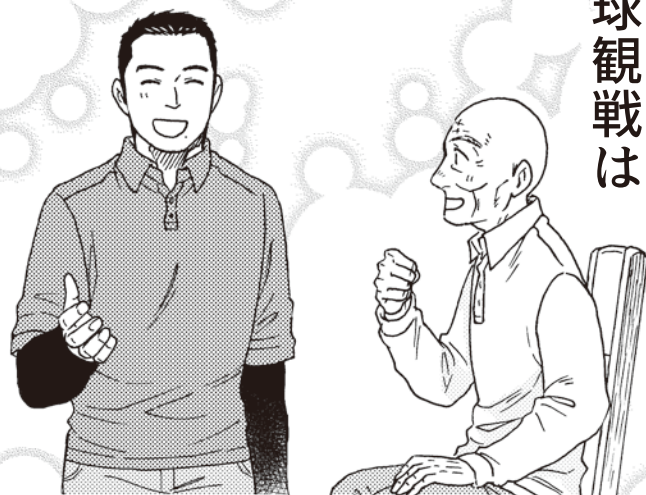




それから程なくして、
Mさんは別の施設へ
移られました

最後の 野球観戦は

私にとっても
忘れられない
思い出です



「やまなし介護感動ストーリー大賞」準グランプリ受賞作品

「最後の野球観戦」中村昌史

認知症グループホームに入居した当時94歳の男性利用者Mさんは巨人が勝つとご機嫌、負けると不機嫌になるほどの熱狂的な巨人ファンでした。

Mさんの娘さん家族も大の巨人ファンで、おじいちゃんを東京ドームに連れていきたいとの思いがありました。それを知った介護士Nは、家族と一緒に東京ドーム観戦を提案したところ、家族は快諾、すぐにチケットや特急券の手配をしてくれました。当時要介護2で心不全を患いながらも杖で歩行していたMさんの主治医に相談し許可をもらい、当日を迎えることになりました。

ご家族とは東京ドームで待ち合わせることになり、介護士Nは、最寄りの駅から電車でMさんと一緒に東京ドームを目指しました。

Mさんは巨人の中でも特に阿部選手のファンで、観戦中は家族が用意していた阿部選手のユニフォーム、リストバンド、マフラータオル着用で応援していました。その阿部選手がホームランを打った時、Mさんが大喜びでタオルを回していたそうです。介護士Nはその時、介護の仕事をしていて良かったと感じたそうです。

観戦から数日後、面会に来た娘さんから「おじいちゃんは、これでいつ死んでもいいです。本当にありがとうございました。」と言っただけは、今でも鮮明に憶えています。